

平成26年第2回邑南町議会定例会(第3日目)会議録

1. 招集年月日 平成26年3月3日(平成26年2月19日告示)
2. 招集の場所 邑南町役場 議場
3. 開 議 平成26年3月11日(火) 午前9時30分
散会 午前11時35分

4. 応招議員

議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名
1 番	大和 磨美	2 番	瀧田 均	3 番	平野 一成	5 番	和田 文雄
6 番	宮田 博	7 番	漆谷 光夫	8 番	大屋 光宏	9 番	中村 昌史
10 番	日野原 利郎	11 番	清水 優文	12 番	辰田 直久	13 番	亀山 和巳
14 番	石橋 純二	15 番	三上 徹	16 番	山中 康樹		

5. 不応招議員 なし

6. 出席議員 15名

議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名
1 番	大和 磨美	2 番	瀧田 均	3 番	平野 一成	5 番	和田 文雄
6 番	宮田 博	7 番	漆谷 光夫	8 番	大屋 光宏	9 番	中村 昌史
10 番	日野原 利郎	11 番	清水 優文	12 番	辰田 直久	13 番	亀山 和巳
14 番	石橋 純二	15 番	三上 徹	16 番	山中 康樹		

7. 欠席議員 なし

議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名	議席	氏 名

8. 地方自治法第121条第1項の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
町 長	石橋 良治	副町長	桑野 修	総務課長	藤間 修
危機管理課長	細貝 芳弘	定住促進課長	原 修	企画財政課長	日高 輝和
情報推進課長	小林 雅博	町民課長補佐	服部 文明	税務課長	上田 洋文
福祉課長	飛弾 智徳	農林振興課長	植田 弘和	商工観光課長	日高 始
建設課長	土崎 由文	水道課長	朝田 誠司	保健課長	日高 誠
会計管理者	安原 賢二	瑞穂支所長	川信 学	羽須美支所長	加藤 幸造
教育委員長	河野 義則	教育長	土居 達也	学校教育課長	田中 節也
生涯学習課長	能美 恭志				

9. 本会議に職務のため出席した者の氏名

議会事務局長 沖 幹雄 事務局係長 日高 泉

10. 町長提出議案の題目 別紙のとおり

11. 会議録署名議員の氏名

議席	氏 名	議席	氏 名
9 番	中村 昌史	10 番	日野原 利郎

12. 本日の会議の概要は別紙のとおりである。

平成26年第2回邑南町議会定例会議事日程(第3号)

平成26年3月11日(火) 午前9時30分開議

開議宣告

議事日程の報告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

平成26年第2回邑南町議会定例会(第3日目)会議録

平成26年3月11日(火)

—— 午前9時30分開議 ——

~~~~~○~~~~~

### 開議宣告

- 議長(山中康樹) おはようございます。本日は東日本大震災のちょうど3年目となります。犠牲となられた方々に改めて哀悼の意を表しますとともに被災地の一日も早い復興を願うものでございます。それでは定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配布をしたとおりでございます。

~~~~~○~~~~~

日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長(山中康樹) 日程第1、会議録署名議員を指名をいたします。9番中村議員、10番日野原議員お願いをいたします。

~~~~~○~~~~~

### 日程第2 一般質問

- 議長(山中康樹) これより一般質問に入ります。一般質問は順番にこれを行っていただきます。あらかじめ一般質問の順番を申し上げておきます。1番三上議員、2番漆谷議員、3番大和議員、4番平野議員、5番和田議員、6番大屋議員、7番亀山議員、8番辰田議員以上8名でございます。それでは通告順位第1号、三上議員登壇をお願いいたします。

- 三上議員(三上徹) 議長。

- 議長(山中康樹) 三上議員。

- 三上議員(三上徹) おはようございます。ええ、15番三上でございます。久しぶりの一般質問でございます。ええ、一週間ぐらい前は町長さんが大風邪を引かれまして、声が出ないという状況で大変私も一般質問するのに心配をしておりましたが、大変元気になられまして、あのう、一緒にできることを嬉しく思います。ええ、私もこの一般質問に際しましては今回どうしようかと思ったりしましたが、はや、早くからこれ、やらなくてはならないということで皆さんに申しあげておりましたので、あれから、非常に間延びがいたしまして、少々トーンダウンをしておりますけども、まあ、一つずつ思い起こしながら、あのう、一般質問をさしていただきたいと思います。ええ、今回2点の質問をいたしております。ええ、まず第1点目でございますが、いこいの村しまねの耐震結果に対する対応策の過程についてと申しあげております。ええ、どのような結果でこうなったであろうかということを検証してみたいということでございます。ええ、昨年6月の総務委員会に耐震結果報告がなされ、その対応策については財源や雇用等、町としての必要性を調査して方向性と費用を示し、協議したい旨の報告を受けたところであります。ええ、その後数回の協議の場はありましたが、内容の、内容が成熟を見ないままに、ええ、今回の26年度の予算に計上されたように思います。ええ、この間、当町においては災害の発生も見ましたし、また議会が毎年行っております意見交換会でもいろいろな意見をいただきました。ええ、そのへんも考慮に、考慮した深い協議がなぜできなかったのであろうかと私自身も反省をしながら、その過程についてを検証してみたいというふうに思います。ええ、私たちがいつもお世話になっておるいこいの村しまねは、ええ、今日も昼から広域的な大きな会

議があるそうでございますが、町にとっては雇用や観光に力を入れる宿泊大規模施設として、また他に与える経済貢献等から見て、大変重要な施設であることは私も重々認識をしておることを、まず最初に申しあげておきます。さて、冒頭申しあげましたように、6月からこの9ヵ月間その対策の目的、内容、時期、費用をふまえて、もう少し深い協議がなげでできなかったの难道うかと、昨年の3月議会にも協議不十分の案件が上程されました。そして一般質問いたしました、今回またこういう当初の予算の時にこの案件を通して、ええ、こういう大事業というか、大事業の項目の協議のあり方について、またまた一般質問をしなくてはならないことを大変心苦しく思うところであります。ええ、今までの経過につきましては、ええ、いろいろひもといてみますと、やりとりが、内容は別にして23ページもございますので、ええ、いろいろいちいち聞いたりしておりますと、時間の関係上、ええ、私の方から簡単に申しあげますので、後ほどここは違うよということがあれば教えていただきたいと思います。ええ、経過報告の内容をまとめて練習してみましたが大変に時間がかかるので、またまたまとめて短くしましたので、ええ、よくよく分かるかどうか分かりませんけども、まあ、あのう、一応ずらずらとやってみようと思います。ええ、6月4日、総務委員会におきまして、耐震結果からその補強と風呂の改修をしたいため、調査をして方向を示したいということが執行部からございました。そして、ええ、6月の議会の、全協6月12日にですね、ええ、総務委員会では出なかった、3パターンの説明がございまして、その中でも一番費用のかからない耐震補強と早急に改修が必要な箇所を設計費を含めて6億円でやりたいと、6月4日の総務委員会にやあ、お金が出ませんでしたが、この6月12日の全協で6億円という予算が示されました。ええ、この予算を9月の補正に出すので認めて欲しいということがございました。その時併せて、6月4日になかった風呂を別に新築したいというのが、またここで、ええ、追加で出たわけでございます。ええ、その後8月22日総務委員会におきまして、ええ、その詳しい設計、補正による設計費は2千ひゃく、う、まあ、2千100万円ぐらいであるということでございます。ほいで、その日にいこいの村しまねをですね、委員会でもどこまでどうなっとならうかということで視察しようということになりまして、その日にいこいの村を見たわけでございます。私も目に見えないところがいろいろ不具合があつて、こりゃどうにもならんかと、建て替えにやいけんかなという印象を受けたのが事実でございます。ええ、それからずっと日は飛びまして、11月22日の総務委員会におきまして概算設計ができました。始めは予算は言うまあか思うんですが、また最後の日に予算が示されたのでここで言いますけども、その時に示されたのは7せん、7億3千万円が出たわけでございます。まあ、始めの予定からすれば1億3千万円オーバーが出たわけですね。内容は本館耐震工事と改修に、それにプラスの、先ほど言いました風呂、さらにこの時にまた出たのはプラスして、宿泊棟も建てるというのが、またこの段階で出てまいりました。約束の6億円以内が全然大幅に違うということではいろいろけんけんがくがく委員会でもしまして、そこらをなんとかもう少しいろんな費用対効果等々も含めて、しなくてはいけないんであらうと。それから12月9日今度はまた総務委員会に本館風呂の改修とLED化をやろうと思っとったんだが取り止めますと、それにおいて6億9千800万円と、したいと。ええとそういうことでしたんですが、設計費も含め6億円以内というどころか、設計費をはずして、6億9千800万円というのが、ここで、また違う見解が出てまいりました。その

後、1月27日臨時議会、全協が行われました。12月9日の説明と全く同じでございまして、ええ、それについてきたのはリニューアルのイメージ図が示されただけでございました。それからもうこの本会議の前の2月20日に総務委員会がございまして、設計費を外した6億9千846万1千円の内容と、初めて風呂と宿泊、3階建て図面が示されました。また耐震補強をするために、申請、審査が必要で、ええ、こういう耐震に入るのは7月以降になるという、また全然今まで聞きもしなかったことが、その時の計画で出ました。そういうことを経まして、まあ今回上程されたわけでございます。この経過をそうしてみますと、当初考えていた耐震補強と風呂の改修6億円が最終7億2千、今設計で言いますと7億2千、その根拠はいかにあったのかと。あるいは会議の都度やりたいことが変わっていると、新館を建てるとならば休業補償とか書いてありましたが、今回の7億まあ、2千万ですよ、設計を合わせれば。その中に休業補償等が全然見込まれておるのかどうかも分からない状態です、今。議会としては改修の必要は認めるが、観光動態、財政、費用対効果等含めてよく検討をして協議の場に出して欲しいということを常々申しあげてきたわけでございます。ええ、そう、総務にですね、2月20日に初めて出された資料の表を見るとですね、6億円以内で考えていた当初の概算項目と別棟増築がもうその時点の6億の中の予算に示されとったわけですよ。あとから出た2月20日の予算書をみると。それなのにずっと最後の最後までそこはひた隠しに隠してきて、そこに至ったと。当初から、もう一方では当初概算から見てですね、新たに10項目もの改修項目が入れられていると。もともと何がしたい計画であったのか、というのが私の今回の非常に、今回質問に至った経緯であります。それと同時にですね、まあ、ちまたにおきましてはいこいの村しまね基金が昔は8千万あると、しかし、霧の湯が赤字なので一緒にして指定管理をしようということとでそこに踏み切ったわけでございますが、今19年、19年からしましても約6千万円があったわけでございますが、それからプラス6年かけて、1500万円をたしますと1億5千万の基金が本来はなくてはならない。しかしそれが今は4千万とか5千万しかないんだという、まあ、状況の中で何がどこに取り崩されたのかも、まあ、実際のところはあんまりよく分からないいう状態でございます。まあ、そういう意味につきまして、私が今申しあげたことに対してこれがそこはちがうよということがあればおっしゃってください。

●**原定住促進課長(原修)** 番外。

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** ええ、概ね、おっしゃるとおりの流れでございしますが、まず最初、6月12日全協にて、総務、6月4日の総務委員会では出なかった案が出たということでしたが、6月4日総務委員会では耐震の結果数値を報告いたしまして、で、町としてはどういう腹なんかという問いかけでございましたので、その点については全協までにあのう、答えを出して申しますということで、6月12日全協にA、B、C三つのタイプの案があるが、あるけれどもAのタイプでいきたいということを申した次第です。それともう1点は先程来、予算のことで、当初6億、それから7億3千万という数字が出てくるんですが、6月4日、12日等にした6億という数字はこれは、あ、6月4日ですね、にした6億というのはあくまでも概算ですので、これは、あのう、決まった数字ではありませんと。それで6月12日に、あのう、設計、詳しい数字を出すために、設計をさせていただきますということで、あのう、進んできて、事業費についてはこの時点ではまだいくらというのは、

おおむねということだけで、進んでまいりました。それで11月22日の7億3千万ですが、これもすべての項目を積み上げた合計額が7億3千万であるので、この数字をもって事業、工事を取りかからせてくださいと言ったことは言っておりませんし、これからさらに検討、協議を重ね下げていく予定ですという意味で申しましたので、何度もその時も申したんですが、この数字だけが一人歩きをしてしまうので、この数字はあくまでも事業費とは認識されないで、しないで下さいということで資料も後で返してもらったような次第です。ええ、あと、事業費を下げたのはLEDを止めたから下げてきたということでしたが、あのう、7億3千万から下がるというのは十分こちらでも検討して認識しておりましたので、例えばそれは風呂の、既設の風呂を止めて新しく増設するだけにしたから、その7億3千万にはどちらも事業費金額が入っておいりましたので、それを既設の風呂の改修をやめたことによって金額は下がってきたわけです。あと、後半部分、ええと、プランを隠したというようなことも言われましたが、こちらはそんなつもりは毛頭ございませんで、途中、途中で検討の段階でこうした形がいいのじゃないかということで出てきた案をその都度すぐに、あのう、表明したわけですので、隠したというようなつもりは毛頭ございません。それと基金があるはずだが、1億いくらが今あるはずだという部分も、2月20日の資料としてその基金の使い道という部分はお示ししております。申し落としておりました。着工がなぜ7月になるかという部分ですが、これは耐震診断をした結果、いろいろな諸手続きを、まあ、設計士さんに頼んで進めてもらっているわけですが、それを進めていく過程の中で結果的にそれがあのう、最終判断が下りるのが、7月になるというのが、あのう、途中段階で分かったので、その分かった時点ですぐ報告させていただいたという次第です。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) まあ、あのう、全体的にはだいたいそうであったということですが、6月4日がどうかこうか言ってるわけではなくて、それはその時、6月4日に示されたことと、12日に示されたことが違いますよと言ったのは、都度、都度、それはよく検討して出せうたけ、そこで出たということでありますが、だいたい総務委員会で出たことが次の6月、ああ、全協にだいたい出るものなの、全協に、総務委員会でなくいきなり出る、総務委員会のときにゃ金が出てなかったわけだけど、まあ、それはあのう、どういうん、あれを、あのう、今、あのう、残っておる、し、式次第じゃあない、あのう、あのう、明記してあるものを私はずっと調べたわけで、その中には載っておりませんから、まあ、重々、あのう、予算はまあ、そこで出てるということでございます。ええ、まあ、このへんをごんごん言っとつてもしょうがないんですが、あのう、取り崩し額を見て下さいいうて、この20日に出した、これ、書いてないからいいよるんであって、取り崩しはそりゃあ200万とか1350万とか書いてあるんですが、内容は全然書いてないわけで、ね、積み立てたのはなんぼ積み立てましたように書いてある、しかし、取り崩したので、まあ、ほんとはなくなってますよいう示しです。内容は何をしたんかわからん。ほいで、よくこの根本的に初っぱな言われた、どんどんどん毎年この1300万とか金がいるから、この際いっぺんにやりたいんだということは分かるんですよ。ほいだが、そこまで1300万をず〜っと費やしてきたんなら、仮にもう5千万しかない、1億も費やしとる

わけだ。19年から言えばね。そしたら、その間なにを1億費やして、ほいたら、はあ、直すとこないんじゃないのと言いつつ、ような感じもするわけよ。ここの、なかなか分からんけえ言いよるんですが、まあ、そういうことですわ。まあ、それはまあ、そういうことで、ええ、あれです、やっというて、こっちへ入らにや、時間がないなるんでね。はい、それではね、次にまあ、こっからいきますが、ええと、まあ、今の耐震結果から見たものはなんですかと、ここにあのう、言っておりますので、そのへんからをここへ、まあ、はあ全部言いましょう。耐震結果について、結果から見たものはなんですか。いこい村の特徴はなんでしょうかと。6億円以上が出てからの、6億円以上ね、まあ、さっき7億3千万が出た、それからはどういう検討をしたんですか。5番目には大災害や町民からの、まあ、大災害がその途中で起きたんですがね。6月からここへ出されるまでに至るまでに。ええ、その大災害や町民からの意見が私らが、意見交換会で聞いてきたことを申しあげたことがあります、それらをふまえて、どういう協議をされたのかと、まあ、どう捉えたか、で、6番目にさっきに言いました、ええ、本館は今15年の耐用年数でいきたいと、今直す過程がね。たら、今度新しくもし造ろうとするならこりゃあ、もう15年じゃあないので、そのへんの整合性をよう考えながら全体の将来見通しをなんとかしてやっとするのかということをお伺いしますので一つずついっぺんにちょっと答えてください。時間がないので。

●**原定住促進課長(原修)** 番外、

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** ええ、まず丸2、耐震結果から見たものはなんですかという問いかけにございます。あのう、I S値数値の一番高かった箇所は、2階の縦方向、いわゆる玄関から、玄関入り口から食堂に向かつての方向を縦方向と申しますが、あえて申しますが、この2階の縦方向で、そして2番目が1階の縦方向、まさに玄関入口から食堂に向かつての方向です。これに対する耐震性でした。おしなべて全体数値も0.4から0.6という、危険性があるという数値結果でした。ただ、事故あるときは町としての責任があり、安全確保のために耐震補強は必要であると判断し、併せて改築も行いたいと表明させていただきました。三つ目、いこいの村の特徴はなんだろうか。議員おっしゃいますように大型宿泊施設、100人以上が一度に宿泊できる施設。郡内にはこの定員101名というような施設はありません。住民の方の結婚式とか披露宴とかでの利用、また全国大会などでの、などといった誘致が可能なものであります。もう1点、交流拠点施設、例えば大朝インターであるとか瑞穂インターであるとか、周辺の観光地、ハイランド、瑞穂ハイランドであるとか、アクアスとかといったところからのアクセスもいいので利用しやすいという点。三つ目に大規模な会議、イベントが実施できる施設である。大型宿泊施設、ええ、これは大会議室や大人数の食事、宿泊が可能で本日も午後から平成25年度中国地区の道の駅関係者を集めた研修会というのが開催されまして、町長も出席しますが、こうした、県レベルの会議や研修会が開催できるのも、この施設が存在するからといえます。過去にさかのぼりますと、平成12年8月には邑智病院外傷セミナーというのも開かれ、その後数年毎年開かれ、平成15年には120人規模で開催された実績もあります。最後にもう1点、立地場所による景観というのがございます。眼下に於保地盆地を見下ろす日本のスイスとも称される景観美、こうした景観美により、宿泊者数が年間1万人、入込客数が年

間7, 8万人、平均するとですが、を誇る町内有数の観光入込客施設であると認識しております。四つ目、6億円以上が出てからの検討はということでございますが、この6億以上というのは7億3千万という積み上げの数字のことと解して申しますが、それ以降財源的にこの起債償還額の一般財源分については減債基金で確保することが可能となりましたし、数年後すぐに再び大規模な改修が必要とならないよう、改修プランについて検討を重ね、節約可能な部分、先ほども申しましたが、節約可能な部分もあるので事業費の減額について協議した次第であります。五つ目、大災害や町民からの意見をどのように捉えたかということでございます。直接、町民さんからの意見は聞けませんでした。議員の意見交換会報告書には、いこいの村について179件中2件の意見が載っており、1件は経営状況を聞いたもの。もう1件が収益性を考慮して閉鎖すべきじゃあないかというような意見があったようです。ええ、災害復旧費も多額を要しますが、町にとって、この施設の必要性があると認識しているので改修工事に取り組もうと決断した次第です。また、2月の防災会議でいこいの村しまねの避難所指定を行いました。耐震補強工事を行うことで指定避難所として、長期間被災者を受け入れることも可能となりました。なると信じております。ええ、最後本館15年の耐用年数と増築部との整合性、将来の、全体の将来見通しと計画性ということでございますが、これまでに15年から20年単位で大規模な改修を行ってきております。が、本館部分は築35年を経過しております。ええ、耐用年数50年とすると、あ、残り15年という意味での対応年数と思いますが、ええと、この今回の工事で建物自体は耐震補強あるいは屋根の補強及び外壁の補強等して、建物の長寿命化を図るので、建物自体はおそらく30から40年は耐性があるだろうということを設計士さんからも伺っております。ただし設備に関しては、さきほども15年単位、20年単位で大規模改修を行っている、この設備に関しては今後もまた15年、20年ぐらい、後、ぐらいに改修を必要とする状態も想定はされます。ええ、そうした中、今回の増築部分との整合性ですが、あ、隣接して現在の本館と同規模の建物を建築するに十分な建設用地はありますが、その時の状況により、再度設備を改修するのがあるいは解体し、新築するのか、再度検討されるべきと捉えており、その時また議論する必要があるのではないかと考えます。ええ、リニューアル後は農林商工等連携ビジョンに基づく観光入り込み客100万人達成を目指して、真心のこもったサービスで宿泊客、入り込み客の大幅増実現な大きな核となる施設と捉えております。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) はい、ありがとうございました。まあ、そういうふうにもいろいろまあ、聞いたわけですが、こんだあ、全体的にいきたいと思いますけども、ええ、まあ、さっき耐震結果から見えたものということで、ええ、まあ、IS値がどう、しかしながらまあ、初っぱなの段階ではね、IS数値がどうであろうと、自治体が持つておるこの建物ではあるけども、法律的には、直さなくてもいいんだよというのを初っぱな言うておるわけで、時期がすぐやらにやいけんとかはなかったんだけども、しかし、自治体としては、ああ、こういう施設はやらにやいけんだろうという程度でスタートしとるわけで、これは無理に数値がどうだからやる、やる、法律的にやらなくてはならないということはないということというわけだけえね。始め。それだけは言っときますよ。ええと、それでね、まあ、



私はまあ、非常に素人で、ええ、耐震等々についても素人なんで分かんんですが、要は例えば耐震いうたら、揺れに対して、あるいは座屈、重さに対して、それが十分持つかというのが、まあ、耐震だろうと思います。私もその専門でないけど分かんけども。まあ、私はまあ、機械の設計屋だったので、まあ、いろんな意味でこれをどうしたらその目的に達せるだろうかいうのを何本も何本も考えて末に、この方向でいこうというのを今までやってましたので、特にこういうことをいうんかも分かりません。ええ、そういう中でね、私が素人で考えたら、たとえば両サイドをね、変な意味両サイドを三角定規でおそったら、横揺れの対象がなくなるのかなと、そうすると正門から入るところの方の変なこがあな耐震をしなくてもいいのかなと、外にすれば、いうようなまあ、単純な考え、考えももつとります。まあ、そういうことから考えてまあ、一つの考えだけでなくあるいはコンペをするなり、いろんなことをやっぱり考えられた方がよかったのかなと、わたしやあ、まあ、こういうとき〇〇〇〇（聞き取れず）があつたらこう思うわけです。それと次のいこいの村の特徴についてということで、景観がいいとか、大規模、そりゃあわかっとなるから必要だということを言うとするわけなんで、私らもそれは否定するもんでない。やらなくちゃならない。特に言うときですが、ある時期こういうことがあつたんですよ。これをほいじゃあ、よそに民間にしてもらつとるように、ある程度の改修をして民間にしたらどうかというような話もあつたんですが、しかしこれをやったらおかしいよというて言うたんですよ。それはなぜかいうたら、もし、民間にあげたときに、その人が経営がおかしゅうなったとき、や〜めたいうたら終わりになるから、これは町がどうしてもやっとかにやいけんということで、まあ、今するいうことをよう重々考えておかにやいけんので、そいで町がするんだと、町があくまでも持ってやらんと、駄目になったときになくなっちゃあ、町が先ほどこから、どう、ねえ、あるように景観もいい、そういう大規模がないということで絶対これ守らにやあいけんよということで、始めの段階でスタートしたわけで。ほいでもう一つさっきのいこいの村の、まあ、特徴とか、観光動態の分析ということでいろいろ聞きました。その中でね、一番わし気になったのは、宴会、入り込み客の宴会がね、なぜ少なくなったかいうたら、宴会数が減ったんだらうと、ほいでちょっと料理が不満があるのかなというのも言うとするん、たら、そういうもうちょっといろんな分析をね、せにやあいけんのじゃないかと、さらにほいじゃあ、宿泊が見たら今度宿泊棟を建てるとかどうとか言うけれども、宿泊を建てるとなると、ねえ、宿泊、あのう、リニューアルのどこ、こんだあ新しくやる〇〇（聞き取れず）今1万人が2万人にするいうて書いてある。ね、だけえ、そりゃあ宿泊はほいでも今までできたら、同推移で減ってないんよ、宿泊は。ここのいこいの村は。入り込み客がへつとるだけなん。そのへんのもうちょっと動態分析なんか、ほんとにやっとするんかなあと、まあ、この投資することについて、ほいでまあ、たまたまわしも素人でまたちょっと費用対効果を出してみたけども、とてもとてもそがあなもんじゃあない。この2億1千万をかける3階建ての宿泊棟が費用対効果だしたら、いやあまあ、そりゃあそうだね、今まで儲けてないんだから、費用対効果、そこで1万人に増やしてもでんわな。で、そこらのところの計画がね、ほんとにできとったのだろうかと、いろんな意味で。いうことが私は言いたかった。で、そいでもう一つは6億円以上が出てからというて書いておりますが、ここのその時に一番考えにやいけんのは、わしやステップの問題だろうと思うん。さっきからも言うとするように、こんどたい、ほんと始めの目的は耐震だった、

耐震だったけどもなんか変わって、こんだあ宿泊棟をさきい建てさせちゃんさい、の、耐震は7月過ぎてからですよ、うう、まあ、計画がねわしゃめちやめちやいう思いがするんです。ほいじゃあステップの1として、耐震とその周辺の部分、接待業として最低限やっとかにやいけんことをやらしてくれ、ゴー出してくれいうていうたら、すぐゴーできとったと思う。ほいたら、もうこの4月に予算とったらすぐできるん。設計費も、はあ去年の9月に出しとる。ねえ。そう思わんですか。で、そこいらがステップがね、ほいじゃあ、わしのステップ考えて見たんですよ。考えて見たが、そのステップが、まあ、第1のステップは先ほど申しあげたとおりです。あもう、今の接待業のね、として絶対なくてははいけない。ステップ第1がずっとやってみたら、僕が計算しただけで、ええ、これでも項目が、1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. じゅうなんぼありますよ。それだけの沈下したとこやらいろんなねえ、直さにやいけんところがみな書いてある。これ2億5千万ですむ。ほいで、それをやらしてくれいうて、ゴーだしとりや、はあたぶんいっとると思うんです。ほいで、第2のステップは今からこういうのを出しとるが、何年持つだろう、どうだろうかいいう検討をしてですね、あ、これは5年しかもたんかな、今やっという方がええのかな、あるいはあこまでもつんなら、もつとかんでもたそうかなという項目をやっぱりここへ10項目ぐらいある。それをやってもそれも2億なんぼなんです。ほいで、第3のステップは先ほどいうた今度は観光動態と投資効率からみて、まあ、これは鶏と卵だから、いいなりしたグワ〜と人が増えるとか、どうかいうのはいっぱいあると思いますよ。確かに。あると思いますけども、そういう投資効率等検討してですね、あもう、是非ともそれなら踏ん張ってやろうというところをもって、いろいろ協議、協議して決める部分が、まあ、今ここでみれば4項目。自分で、まあ、自分で考えたことですから、勝手に。そこがまあ、2億4千万ぐらいあるんです。だけそういう、なぜ、そういうステップを考えながら、時期も考えながら、その計画ができなかったのかということ、私は非常に残念に思うとるんです。ね。いうことで、さっき言うたように始めからいろんな、しめしやあ、あもう、後から示した、はじめやあなかったですいうが、最後に2月20日に出してくれた予算書の中にやあ、最初にあったのもあるし、なかったのが十何項目、また入っとるということは事実なんで、まあ、そのへんをよくよく、ええ、思うてほしいんです。で、要はね、ええと、これからねえ、私が言いたいのは、まだ時間があるな、よし、ええと、まあ、そういうことを考えてね、ええ、この事業がね、もし、はあそろそろ町長がでるかもわからんがね。ええ、この事業がね、もし自分の家の改修であつたら、このぐらいの検討で判断、決断したかどうかと自分で非常に思うんですよ。財源がまあ、大きくても小さくても基本は町民全体の金なん。これぐらいの協議、根拠説明で私たちがもう一つ判断できると思いますか。もう一つは執行部としてほんとうに理解ができていたんですかいいうことをお伺いします。

●**原住促進課長(原修)** 番外、

●**議長(山中康樹)** 原住促進課長。

●**原住促進課長(原修)** 1点ほどあもう、同時進行、4月にはもうすぐ着工できたはずだがという、あもう、ことごとございますが、あもう、これ耐震設計をして、あもう、認可所への手続き上分かったことなんです、あもう、耐震工事が完了しなければ附随した増築等もスタートできないということがやりとりの中で分かってきたわけです。当初4月には増築部分の建物はすぐ建てられるかなあという思いではおりましたが、やりとりの中で耐

震補強が完了しなければ、それに附随した全く新築のものなんだけれども、その工事の着工もできないということが分かりまして、そうなるとにかくもうこのプランを進めて一刻も早く耐震補強工事それに伴う内部の改修も同時進行でいかなければいけないというふうに認識した次第です。以上です。

●石橋町長(石橋良治) はい議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) ええ、ま、いろいろとあのご質問を受けてですね、ええ、我々にも多少反省する点もあったかも知れません。ええ、ただあのう、やはりこのいこいの村っていうのは、築後相当経っておりまして、ええ、したがって耐震診断をした結果、ほんとに危ないという値が出たわけでありますので、ええ、やっぱりこれは早急に手を打たなきゃならない、これはあのう、やっぱり我々の管理責任も問われるわけでありますから、そういうことで、まあ、ある程度時間を詰めながらやってきたわけであります。ええ、まあ、そうした中でただ耐震だけではなくて、まあ、ここ数年いこいの村はそのものが、やっぱりあのう、入り込みあるいは宿泊も含めてですね、ちょっとこう落ち込みをかけているということで、ええ、なんとしてもこれは上げていかなきゃならないとなると、やっぱりその一番の売りであります風呂、そして今時やっぱり和室だけではなかなかお客様に対応できない、ニーズに合わないということで、やっぱりベッドも兼ね備えた宿泊施設も必要であろうと、これ、やっぱり同時にやっていくことによって、相乗効果を併せながら、いこいの村の存在価値というものを高めて行く必要があろうとこういう思いに至ったわけであります。ええ、しかしながらやはり町の財源というものもあるわけであります。そしてこれ、起債は過疎債であります。過疎債の借りれるタイミングとかいうこともいろいろあるわけでありまして、ええ、そういった最小の財源で最大の効果を発揮するために、まあ、今回決断をしたわけでございます。ええ、多少のその説明不足とか等々あったかどうかについては、まあ、いろいろ私どもも今後のですね、教訓にしなきゃならなりませんけども、ええ、是非ご理解をいただいて、一刻も早くいいいこいの村がリニューアルできますように、一つご尽力賜りたいというふうに、まあ、思っております。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) ええ、まあ、あのう、理解をしてくれということで、まあ、今回最後に言おう思いよったんですが、まあ、一般会計入っとるんでね、むやみやたらにはん、反対とか、反対もできませんということを最後に言おう思うんですが、まあ、ありやああとにします。ええとこれがね、あのう、もう一つひっかかったのは、どこでね、わしゃどうもねえ、その会議をするたんびゅう、どこでね、何人ぐらいで、だれが集まってこんだあこういうことをなったというのを議会に説明にいただいたのかなという非常に疑問をもった。誰と誰いうのは言わあでもええけども、たとえば何人ぐらいが、一つの課だけなのか、よそもちったあ寄ってもろうてね、こりゃあどうだろうか、そういう会議をね、だれとだれがどこで何をされたかちょっと〇〇（聞き取れず）。

●原定住促進課長(原修) 番外。

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) ええ、いこいの村のリニューアルに関しまして、耐震補強も含め

ましてこのプランについては、設計士さんを交え、まあ、管轄します定住促進課担当職員等で、ええ、細部に渡って基本的な部分は考察いたしました。で、その結果はその都度執行部、副町長、町長にも経過報告いたしまして、了解を得て進めていきました。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) はい、分かりました。まあ、見るとまあ、あんまり大勢でやった形跡がないなあということでございました。えーと、ほいでまあ、今の状態でね、まあ、この間あのう、町の財政についても話しがあったんですが、まあ、平成28年には基金を取り崩して予算を立てなくてはならないというふうな、まあ、財政の状況もあり、32年にはもう予算が取り崩せないで、予算がたてれるかなど状況も来ておることはみんなも重々承知しとるところでございます。まあ、今回さらに皆さん知ってのとおり、資材の高騰、あるいは業者の仕事量等からですね、この近辺でもですね、公共施設の入札が不落に終わっております。ええ、それと同時にまた8%の消費税が目前となっております。こういう現実と併せてですね、今の不確実、不透明な予算根拠でですね、この予算がほんとに守れるかどうか言うてください。

●原定住促進課長(原修) 番外、

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) ええ、消費税8%分については当初から見込んで設計額等あのう、事業費予算の中に組み入れております。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) ええ、まあ、消費税等々は見込んであるということですが、この不落について等々もいろいろあることではしょうが、一旦計画的に出した予算であるならば、これから、まあ、あの見通しやあ、はあ、さっきこないだ財政課長から受けたのを私がしゃべっただけですので、よろしゅうございます。それで、まあ、そういうことで、まあ、非常に大変な時期にこういうことを、まあ、逆に行うということを非常に肝に銘じながらですね、さっき、まあ、わたしやあこれがええとは思ってない。ただ、一番の問題はここへ町長さっき言われたようにいろいろ反省するところもあるということで、やはりね、こういう大きな事業をやるときにね、もう少し、ステップはどうなのかとかね、やっぱりもうちょっと町民にもある程度納得、今日はたぶんテレビを見とられる方が、なにゅうあの三上徹は言いよる、不細工なことをいう人もおるかも分からんし、いろんなことがあると思いますよ。ただほんとに聞いた時に分かるね、後からなるほどというふうなことをやってもらいたいのが、私の事実です。ほいで今回そこらが非常に見えなかったんで、私が特に前々も協議しないのを、ちょうど当初予算がでたけ、またやったようなことでね、何回も続くんでもまた心苦しいがやるというただけです。ほんでまあ、そういうことで、まあ、今回もまあ、協議のあり方についてね、大変質問を通して苦言を申しあげましたけども、ええ、この案件はまあ、一般会計に上達されておりますので、この場に至っては、一般会計を反対するわけにもいかない。この、しかしながら、この執行にあたっては執行する方、議会の我々、そうしてそれを運営する方、それぞれ目的を達せるために努力と先ほど申しあげましたように責任を負わなくてはならないということ、肝に銘じておかなくてはならない

と思います。ええ、それと同時にまあ、今から実際に執行するわけですが、予算が通ったということで、たぶんされるわけですが、まだ執行するに至っては先ほどの話しで7月まで、ええ、審査が通らんとかどうとか、非常にまだ時間がありますのでやめるとこは、バツサリ落としてやめてもろうてもええですから、あのう、そういうことも考えてですね、やっぱりやっていただくよう、そして成果を出していただくよう、ほいで、まあ、町民の皆さん見ておられる。いこいの村がそれだけやるんならわしらも大いに行って、そこを盛り上げて黒字を出してやろうやと、いうことが言われるようにですね、やっていただきたいなと思います。ええとほいじゃあ、次の質問にまいります。ええと次の質問はですね、これはまあ、ちょっと提案ぐらいになるかと思いますが、生活交通対策の見直しについてということ掲げております。ええ、町民が乗車の少ないスクールバスが非常にいいということですね、まあ、町民全体から聞いとるわけですが、よく耳にいたします。ええ、この現実をどう捉えていらっしゃるだろうかということで、ええ、ここに書いておりますように通学に必要な便以外のスクールバスですね、の、乗車率は今いかがであろうかと。そいでもう一つはまあ、羽須美にタクシーがないわけなんです、タクシーのない地区、あるいはこの石見にしても瑞穂にしても公道からという地区の交通弱者対策は今どう考えられているのだろうかということをお伺いいたします。

●**原定住促進課長(原修)** 番外、

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** ええ、通学に必要な便以外のスクールバスの乗車率ということで、まず、羽須美地域にはスクールバスが4台ございます。おおなんバス、羽須美・田所線、宇都井線、戸河内長田線、下口羽上田線の4台です。便数としては4台でも、その地域から羽須美中学校へ向かう朝の1便、夕方の帰宅便として、それぞれ4時、5時、6時台の3便がありまして、この計4便が走っております。1日のスクールバスで通学に関係ない便の乗車率を申しあげますが、まず乗車率とは路線バスなどで、あのう、乗車定員を100として実際にそれに対して乗っている人の割合のことですが、ええ、スクールバス宇都井線、戸河内長田線、下口羽上田線のこの三つはスクール便以外の昼間の便はありません。ええ、ただし、週2回、水曜日と土曜日には12時台の便が運行しており、乗車率が宇都井線が7.1%。戸河内・長田線が13%。下口羽上田線が6.9%となっております。残り1台である羽須美地域と瑞穂地域を結ぶ羽須美田所線については11時台と13時台、15時台にそれぞれ1便ずつあります。乗車率は11時台が10.3%。13時台が20.7%。15時台も20.7%です。この便は主に邑智病院などからの帰宅便として利用されています。ええ、スクールバスがよく空で走っていると言われますが、これは生徒を通学させるため、朝迎えに行く、空っぽになっている便と放課後生徒を帰宅させるために送迎後折り返して運行する空の便を見て、そう言われることがあります。加えて羽須美田所線、下口羽上田線などスクールバスが近い時間に重複して走る区間もあり、スクールバスがいつも空で走っている印象を持たれるかと思いますが、そうした事情があることもご理解いただきたいと思います。2点目のタクシーのない地区、公道から遠い地区の交通弱者の対策ということでございます。ええ、タクシー業者が廃業された羽須美地域や公道から遠い地区での交通弱者の対策については邑南町生活交通検討委員会で話し合いがなされていました。特に邑南町は面積が約420平方キロ、広範囲に世帯が点在しているため問題

課題が多くその対策が求められております。本町においてはこれらを解消するため平成25年度にけんこう号の拡充を重点に取り組んできました。まず江平上ヶ畑線を新設しましたが、木曜日運行のこの便には、毎週4人から6人の方にご利用いただき、喜んでいただいております。また、併せてけんこう号車両として14人乗りのワゴン車を購入しました。これは、これまで中型バスでは入れなかった地域に入ることを可能にするためのものです。平成26年度は新たな運行ルートについて、住民の方や関係者等の意見を聞きながら検討したいと考えております。また、今年度、邑南町有償運送運営協議会というものを設立しました。これにより、過疎地有償運送や福祉有償運送の実施について検討する体制ができあがりましたので、平成26年度は、福祉的側面や地域の相互扶助による新たな輸送活動など検討してまいりたいと考えております。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) ええ、私が予想していたのと非常に違いますので、ええ、ちょっとどう言おうかなと思いますが、100人中、まあ、7人のつとると、まあ、1日のことですがね。要は平均なんだから1日でその17%、あるいは6%、20%、すごいなあと私も今感心をしたところです。ほんとうならね。ええっと、そこでですね、まあ、有償体制を今からやっていくということで、非常にまあ、喜こんでおりますし、また先ほどの平成25年から、まあ、私の地区の江平にですね、タクシーがなくなったということで、けんこう号を走らせていただいてこれは非常に感謝しておるところでございます。まあ、そういう状況の中でね、私今一番まあタクシーさんがなくなったからね、非常に羽須美の人まあ、困っておるのは確かなんです。ほいでNPOでやろうとかいろんなことも、まあ、検討も、まあ、わし一人の頭ン中でもやったり、いろんなところでもやったんですがね、なかなか一番最後の問題は、あのう、事故をしたときにどうかと、まあ、となりの作木で大事故をしたのがありますし、ほいでそういうところがね、一番心配でなかなかね、そこへ前に進めんのですよ。まあ、そういう中でね、今特にうちの地区なんか三次からよんどるんですよ、タクシーを。作木もないし。ほいですっごい金がまあ、かかっとなるのが事実なんですよ。でまあ、そういうところがあるのでね、まあ、私が今日提案をしたいなあと思うて、お願いしたいと思うたのは、先ほどの乗車率がほんとに低い便があれば、それを止めたらどうかというのを言おう思いよったんです。ね、ほんとに乗車率が低かったら。それはまあ、もちろんその止めたらですよ、今指定管理で一緒にやっていただいとる、ねえ、運送会社さんにそれからちょっとひかしちゃんさいやということになるけえ非常に申し訳ないんですけども、そいでもガソリン、ランニングコストのガソリン代ぐらいは引いてもいいんじゃないかとか、いろいろまあ、なるとは思って言うたんですよ。で、そういう状況の中で、なんぼかそれが、引けたら、それをいい方法の代替えに持っていけないかというのが私の思いだった。それはどういうことかという、まあ、デマンドバスの的に考えると、ほんとにタクシーをやっとられる邑南町の中でやっとられにゃあ、ねえ、三次から呼んだのにも補助金を出すわけにいかんけ、邑南町の中でやっとられるタクシー会社であれば、迎えにきていただく半額は町が出すよと、まあ、そのへんからちよっ、ちよっとうまくなればね、町が出すよと、あとの半額の高いところは本人が出さにゃいけんのだよと、しかし、これは3人で計算しましょうやと、そうすると3人が料金を払うので、割って、迎えに来てく

れる半分ぐらいは補えるんじゃないかと、3人の体制でいけば。ね、ほいでそれでまあまあのところがいくんじゃないかなといういろんなこうやり方をね、計算をして、ほんとに町民が満足いうか、なるほどなあという、少々ちょっとは出しても、おお、便利がいいなあと、いつつも言うても3人ほど人を集めりゃあ、なんとか安くできる、一人でどうしても重要なときゃあ、ちょっと高くつくけども迎えに来てくれる半額はまあ、補助が出るとかね、そういう方向の案を考えていただくと町のまあ、運送業のタクシー会社の方もよからうし、よそから雇わんのだけ、よからうしね。というようなそのなんか専門的にね、わしらまあ専門家でないけそのへんがようわからんのですわ。ほんで、まあ、そのへんをふまえて、乗車率とふまえてね、よそへ素晴らしいことを、素晴らしいこというか、まあ、それをやることによって新しいことが、やあいいなあと町民が言ってくれることが生まれるといういろんなことをです、代替え案を考えて欲しいなというのが私の思いだった。ほいだけ、これをしろということではありませんが、まあ、今から有償のそういう連絡協議会でいろんなことを考えていくということなので、まあ、そのへんも併せてです、一つはタクシー会社からもあったんですよ。一つはねこういうのもある。もともと頼んでくれよっちゃったんで、遠くからきよったんだけど、まあ、ボランティア的に、今度はあのう、施設へ入って、冬は入るとるけ近いけいらんだけでも、施設からそのこんだあちいかいどこへ行くのに行く便がない。で、施設から近いどこへいくということは料金はやあすいんよ。料金はやあすいんだけど、やとえん、歩いて行くのは大変というような事態なんだ、分かります？意味がね。だからあのう、まあ、そういうところもあって、いろんな方法を巡らしてね、あのう、ほんとにまあ、事故があっちゃあいいんですけど、まあ、その責任体制が持てるところでです、そういうなんか代替え案をね考えてほしいなと思うんですがいかがでしょう。

●**原定住促進課長(原修)** 番外。

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。残り時間が少のうございますので簡潔に答弁をお願いします。

●**定住促進課長(原修)** 今後については、生活交通検討委員会という会がありますが、もちろんあのう、おっしゃるようにタクシーを有効に利用した策というのは選択肢として大きくあります。ええ、そのうまく機能してないバス路線をタクシーの方に変えるという案も一案あるでしょうし、また地域の自治会輸送などそういった地域での体制に協力することも可能だと思いますので、これから十分そうした委員会で協議していくべき課題だと捉えております。

●**三上議員(三上徹)** 議長。

●**議長(山中康樹)** 三上議員。

●**三上議員(三上徹)** ええと、もう、もう3分ちょっとありますので、あのう、こういう生活交通に対して町長の見解をお願いします。

●**石橋町長(石橋良治)** はい議長、番外。

●**議長(山中康樹)** 石橋町長。

●**石橋町長(石橋良治)** ええと、昨年ですかね、あのう、半年かけて職員が各地域に出かけていろいろ皆さん方、町民の皆さん方とまあ、今困っていることはなんだろうかということも含めていろいろ聞き取り調査をやった結果を見てみますと、ええ、上位にやっぱりあ

のう、どんどん公共交通が減ってくる、あるいはバスも減ってくるという中で、やはり生活交通的な要素をもっともっと考えてほしいというようなご意見が相当あったと思いますので、ぜひあのう、三上議員さんのご指摘も含めてですね、課長が言いましたように生活検討委員会で十分今後は検討していかなきゃならん大きな課題だというふうに思っております。

●三上議員(三上徹) 議長。

●議長(山中康樹) 三上議員。

●三上議員(三上徹) ええ、いろいろ申し上げましたけども、まあ、あのう、始めの、まあ、苦言あるいは後のお願いいろいろありました。まあ、いろんな意味で町民がよくなるように再度の検討をしながら、一番有効な方法で努力していただきたいと思います。これをもちまして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

●議長(山中康樹) 以上で三上議員の一般質問は終了いたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は午前10時45分とさせていただきます。

—— 午前10時31分 休憩 ——

—— 午前10時45分 再開 ——

●議長(山中康樹) 再開をいたします。続きまして通告順位第2号漆谷議員登壇をお願いいたします。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 7番漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) 皆さんおはようございます。ええ、7番議員の漆谷光夫です。どうぞよろしくお願いいたします。ええ、質問に先立ちまして、今日は3. 11から丸3年でございます。ええ、東日本大震災で犠牲になられました皆さんに心から哀悼の意を表し、また今だ仮設住宅で不自由な生活をされておられます皆さま方に心からお見舞いを申しあげます。また今年度26年度は昨年の8月24日の本町みま、あのう、みまいました記録的な豪雨で被害を受けたわけですが、その復旧の年になろうかと思います。私も議会の一人としてですね、一生懸命皆さんと共に尽力してまいりたいと思います。まあ、併せて考えることですが、やはり備えあれば憂いなし、災害に強いまちづくりをしていくことはこれから非常に大切なことではないかというふうにまあ、痛感しております。まあ、これからも防災、危機管理には十分皆さんとともに力を入れていかにゃあいけんというふうにまあ、考えております。ええ、それでは質問に入らせていただきます。ええ、通告書通り、に、そって質問させていただきますが、ええ、まず1点目は町有地の遊休地、仮施設、これの管理状況あるいはどういう考え方で遊休地や空き施設を利用していかれようとしているのか。また今は財政が非常に厳しい時でございます。そういう中であって、このように町有地あるいは空き施設を利用していくのは財政にも優しい方法ではないかというふうに私は思いますが、その点についてお考えをお尋ねします。よろしくお願いいたします。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) 町有地の普通財産であるあのう、遊休地ということであろうと思います。基本的に普通財産である土地、建物がございますが、これはほとんど既に地域の方に、事業者とかですね、あるいは各種携帯電話の無線基地の用地、そういったものに賃



貸契約を締結して、かなりの数の有効利用を今しておる最中でございます。で、それで残った部分の遊休地でございますが、羽須美地域に今12カ所、瑞穂地域に7カ所、石見地域に8カ所計27カ所ございます。うち、まあ、旧桃源の家の等の18カ所が老朽化した住宅や施設等の建物を解体した跡地でございます。その内、面積の大きなものとしては、高水にあります旧いこいの村のスキー場の用地とか淀原にありますふれあいの丘用地等がございます。いずれの土地も、現時点では町では利用計画はありませんが、計画が策定された段階で遊休地である普通財産が行政財産として活用される可能性は持っておるところでございます。現在の管理でございますが、草刈等の環境整備を行いながら管理しているのが現状です。また、空き施設でございますが、これ今邑南町全体で6カ所、施設は6カ所ございます。いずれも老朽化しておりまして、建築年次も昭和56年以前のものばかりで、耐震性が確保されていません。従って、そのほとんどは今、倉庫がわりに利用しているのが現状でございます。これは財政状況や補助金等の活用ができる時期がありましたら解体処分をしていかなければならないと考えております。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、具体的には旧桃源の家の跡地の利用計画であります。ええ、まあ、この計画いいですか、これを提案する前にですね、ええ、若干その桃源の家の歴史とか地域の思いとかをお伝えすると、なぜ私が言う、ここで提案するいうかことも分かっていたかと思っておりますので、しばらく時間をいただきたいと思います。ええ、旧桃源の家はですね、ええ、昭和25年、生活保護法によりこの保護施設として計画され、スタートしたものでございます。ええ、それ以来、新しい桃源の家に移るまで約60年間、ええ、最初は矢上養老院と言ったわけですが、昭和32年に桃源の家と改称されまして、ええ、本当にこの町の、福祉施設の原点と言いますか、本当に、ええ、礎を築いた本当に大切な大切な施設でございます。まあ、私、今振り返ってみますのに、まあ、昭和25年当時このように、今は、今でこそ福祉、福祉と言いますが、ほんとうにその時代に福祉の原点だろう、ええ、老人ホームをですね、この地に作られたほんとうに先人の方は素晴らしい先の見通し言いますか、熱い思いが私も伝わってくるわけでございます。ええ、またこの地には当時の厚生大臣の石碑もございまして、当時の熱い思いがさらに伝わってくると私はまあ、考えておるわけです。ええ、桃源の家は地域の中にあっても本当に親しみ愛され、地域でもともに桃源の家は歩んできたような、まあ、歴史があろうかと思えます。ええ、桃源の家のいろんなイベントとか催し物には必ず地元から、ええ、田植え囃子とかいろんなものを持ち寄ってですね、参加さしてもらっておりまして。そういう意味からしても桃源の家は非常にその矢上の地において思いの深い、思い入れの強い、ええ、場所でございます。そういう場所がですね、これから原野化したり、山林になったりするのは非常に残念であるというような地元の声があるわけでありまして。ええ、移転当時は、まあ、さくら会とか総務課長あるいは福祉課長、地元いろいろ3回ぐらいこの、これからの跡地利用についてお話がなされましたが、それ以来まあ、話しは途絶えておるわけですが、まあ、そういう意味からして、この桃源の家をですね、これからの時代にあった町の活性化につながるようなそういう地によみがえらしてほしいと私は思って提案させていただきました。その点についてのひとつご見解をいただきたいと思います。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) ええ、現在先ほど申しあげましたように、検討委員会をあのう、須摩谷の班長さんとか漆谷元、ああ、今も中央自治会長でありますとか、ええ、さくら会の方々、総務課長、福祉課長関係の者が集まって協議をしましてまいりました。これ歴史がある施設でございますので、ええ、それが住民にとって非常に思い入れのある土地を離れることに関して、町としてもその歴史に敬意を払って跡地利用について利用計画を検討すべきと考えているということでやってきております。ええ、ただそのう、ええ、今現在では具体的な利用計画をお示しできるところまでは至っておりません。ですが、昨年実は10月に住宅の建設の利用は出来ないものかということも考えまして、島根県の住宅供給公社の方にご来庁いただきまして、跡地の状況をみていただいたことがございます。で、いくつかのご提案を頂戴した経緯がございますが、残念ながら、結論から申し上げますと、現地の土地の評価額が低いために賃貸住宅を建設しても採算ベースラインにはちょっと乗らないということで、なかなか協力はできにくいという残念な意見をいただいたこともございます。まあ、こういった努力はしておりますけども、なかなか実施できるものには至っていないのが現状でございます。邑南町にとっても定住対策が急務の課題でもありますので、住宅建設等が町内業者さんからの主導のものができないかという、まあ町がバックアップしてでも、そういうこともできないのかという可能性も模索してみる必要も感じております。皆様から有効な利用できるご提案とお知恵をいただきながら、今後も検討していきたいと思っております。で、これはあのう、土地の利用についても町の課題でございますので、今後もそういったことは検討してまいりたいと考えております。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、まああのう、総務課長の説明は分かりました。まあ、今後のやっぱり前向きにですね、ええ、跡地を、跡地の有効利用をしていっていただきたいというふうに考えます。ええ、次に旧矢上保育所の利用計画ですが、まあ、ご覧のとおり石見西保育所に移りましてから7、8年になろうかと思いますが、ええ、まあ、外見からしても植木は伸び放題、ええ、まあ、防犯上から見てもですね、非常に好ましい状態ではないと私は考えます。何かまあ、立地条件にあったようないろんな使い道があればなあという気がしとります。まあ、今はなんか倉庫替わりかなんか入ってみたことはありませんが、まあ、そういう状態でなしに、これも有効活用すべきではないかと思いますが、この点についてはどうお考えでしょうか。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) ええ、先ほどのあのう、①のところで、質問の所でも若干ふれさせていただきましたけども、旧矢上保育所の建物、あとから増築された乳児室を除いた既存本体部分は昭和49年に建築されたものでございます。老朽化も著しくて耐震性も備えておりません。ええ、じつは合併直後に、改修して再利用できるかの試算をしたことがございますが、当時で、4千万円から5千万円近くの試算となっているため、見送りになった経緯がございます。現在は、遊休施設という位置づけではなく、倉庫として使用してい

るのが現状でございます。確かにあのう、老朽化していてあまり格好はよくないんですけども、なかなか、ええ、先ほど言いました六つ残っている遊休施設の中の一つでございます。例えば石見中学校の寄宿舍とか、まあ、今東小学校の体育館、グラウンドとかですね、瑞穂地域で言いましたら、市木の教員住宅とか、ええ、旧上田所の多目的集会施設とかいうのが残ってますけどもいずれももう耐震性もなく、非常に厳しい建物になっておりますので、なかなかどっちかいうと解体の方に向く方が多く、傾向になるのではないかと考えておりますので、なかなか有効利用ができない状況でございます。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) まあ、あのう、老朽化して解体の方向性だということですが、ははりこれもですね、計画性を持たして、ええ、持ってしっかりとまあ、進めていただきたいと思います。まあ、あのう、最後に町長に伺いますが、この桃源の家の問題については町長も思いがあるのではなかろうかと思っておりますので、一言お願いしたいと思っております。

●石橋町長(石橋良治) はい議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) ええ、まあ、邑南町全体で言いましても、ええ、かなりの町有地の部分が将来有効活用できるのではないかなというところがございます。もちろん桃源の家の跡地も含めてでございますけども、したがってまあ、今、企画財政課長にも言っておりますけども、総務課と一緒に、ええ、そういった町有地の有効活用について方向性を出すようにということを言っておりますので、ええ、まあ、今年度かけてそういう一定の方向に出るのではないかなとまあ、いうふうに思ってます。まあ、そうした中でご指摘の桃源の家の跡地についても、特にあのう、矢上地域については従来から非常にあのう、住宅のニーズが高くて造ってはすぐ埋まるというような状況でございます。ええ、今後のその若者定住対策を考える上においても、住宅っていうのは大きなファクターでございますし、特にあのう、桃源の家の跡地については比較的中心から近いということもございます。まあ、答弁がありましたように県の住宅供給公社に来ていただきました時に、県が申しますには、ああ、公社が申しますには、ここは非常にまあ、住宅の土地としては非常に向いているということはございました。ただまあ、あのう、ええ、どういうんですか、あれは、急傾斜、急傾斜崩壊地域に、ちょっと一部なっているというふうにまあ、なっておりますので、ええ、まあ、そこはちょっとこう除いたとしても今の全体の跡地の中の、どちらかというと矢上の商店街に近いところのところは、非常にこれはすぐにでも使えるというようなことの指摘もございましたので、ええ、まあ、そういう中で民間の方をですね、巻き込んで、まあ、分譲住宅ということの提案もあるかも知れませんが、あるいは土地の、あのう、定期の借地せい、借地をこう、契約を結んで個人と結んで安く土地の地代を払っていただくようなことも考えられるし、ま、とにかく民間のお考えをやっぱり取り入れながら、いかにいいその住宅の用地として提供できるかということの柱にしながら検討していかなきゃならんなあとまあ、こういうふうに思っておりますので、ええ、そういうことも含めてまあ、今年度できるだけ検討していきたいなあとまあ、いうふうにまあ、思っております。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) まあ、有効活用にしても解体にしても計画性を持たしてですね、ええ、これから進めていっていただきたいというふうに考えます。ええ、次に2問目の質問、おおなんケーブルテレビの業務についてでございます。まあ、これは全部関連性がありますので一括して質問させていただきます。ええ、去年はああして、ええ、雷害等も発生したわけですが、ええ、まあ、雷害による1年間の発生状況あるいはそれに修理に状況がどうであったか。また最長どの程度ですね、修理、いわゆる故障してからお客様に、言いますか、町民の方に、ええ、修理する時間がどのぐらい、一番いい時でどれぐらいお待たせ、待っていただいたのか。あるいは、まあ、3番目になりますが、これについては原因は物不足があったんではなかろうかというふうにいろいろ聞いております。この点について。それについてはまあ、雷ですので去年のおそらく予測してみますと、7月、8月あるいは12月、1月いうところに集中しているのではなかろうかと私は思っておりますが、ええ、雷ですからこの月に均等に出て発生するものではございません。その1番いいところにやっぱり照準を合わせてですね、余裕を持って、ええ、機材をストックしとくのが一番いいのではなかろうかと思えます。やはりこのう、機器もですね、今日いって明日入るようなものではございません。恐らく課長からも答えがあると思いますが、近隣で貸し借りもできません。ということで結局は加入いただいている町民の方にご迷惑かけないことは最終的には物を在庫をもっとって、すぐあくる日にはとう、まあ、その日か、明るく日には必ず直していくというのが一番いい方法ではないかと思えます。ええ、最後の新運営体制です。まあ、新しく運営体制が発生するわけで、ああ、出発するわけですが、まあ、これにあわしてですね、まあ、今までの課題を含めて町民の皆さんにですね、いかにサービスを提供していくかと、限られたスタッフの中でほんとに今一生懸命頑張ってもらっているわけですが、さらにこれをですね、サービスを充実していくためにはどのような方法が一番いいのか。そいから新しい新サービスはどういうものがあるか、そういう点についてお尋ねします。

●小林情報推進課長(小林雅博) 番外、

●議長(山中康樹) 小林情報推進課長。

●小林情報推進課長(小林雅博) ええ、おおなんケーブルテレビの雷害による1年間の発生状況と課題ということでございます。今年度は雷によりましてですね、電話のターミナルアダプタが2月末でございますが630台、ええ、壊れまして機器交換を行っております。このターミナルアダプタ以外にも通信用のD-ONUが91台、映像用のV-ONUが24台、それから電源でありますPSUも27台ぐらい故障しております。ええ、課題といまして、大きな雷が今年度先ほど言われましたように7月、8月、12月が2回、1月が1回、大きなのが5回発生しておりますけれども、こういう場合の故障は全町に渡りまして、ええ、さまざまな故障が発生するために大変時間を費やしております。まあ、皆さま方には大変ご迷惑をおかけしてるというふうに思っております。このあとう、TA、ONUに関しましては、在庫がきれますと、大変機器を発注してから納入まで3ヶ月ないしは本年度の場合は4ヵ月かかりましてですね。大変皆さまにご迷惑かけるということになっております。それから2番目に修理に要する日数ですけれども在庫さえあればTAの場合は30分もあれば修理はできますけれども今年度に関しましては8月の災害の時の雷

で、この時点でも226台故障が発生しておりますので、もうここで在庫不足が発生いたしまして、ええ、9月10月最長で2ヵ月間待っていただいた方が約50名程度発生しているのではないかとこのように思っております。それでまあ、その方にはあれですね、ええ、今NTT回線も一緒にTAの中に走っておりますが、NTT回線が使える方がわりかしおいかったものですから、そのNTT回線をしばらく使っていただくというお願いとですね、ええ、その2ヵ月先の機器交換の予定を通知をさせていただいております。現在はTAの在庫は約80台ございますが、まあ、200台ぐらいないと安心できませんので、ええ、新年度はそう、新年度になりましたら早期に発注をかけたいというふうに思っております。それから新運営体制、まあ、4月に入ってからですけれども、まあ、在庫を十分に抱えるということと迅速に修繕ができる体制を検討していくと、人員増を含めてやっていきたいというふうに思っております。それとですね、これはまあ、あのう、お願いと改善策TAの故障対策なんですけれども、現在はNTT回線とIP回線と二つそのTAに入れて1台の電話機で、ええ、対応しておるんですが、対応策といたしましてですね、NTT回線と別にIP電話の専用機器の設置を進めていきたいというふうに思っております。今年度、まあ、昨年度からモニター的に約100世帯ぐらい2台電話のやり方で対応してみましたけれども、そのお宅で故障したことはない、故障が発生しておりませんので、ええ、2台電話機対策といいますか、それをやると非常に故障が少なくなるというふうに思われます。実はあのう、去年、昨年度、あ、今年度ですね、ええ、渡しいたしましたIP電話帳のこれ1ページ目にですね、あのう、現状のこの1台体制の電話機とこちらに2台、NTT回線とケーブル回線ありますけれどもこういうやり方もありますというふうに1ページ目にありますけれどもこちらの体制をこれから進めていきたいというふうに考えております。まあ、これはあのう、新年度になりまして番組の中とかそういうお知らせを使って周知していきたいなというふうに思っております。ああ、失礼しました。あのう、新サービスというのは放送の方も含めて、ええ、ということでございますが、ええ、あのう、放送の方も新年度になりまして、ええ、新たなサービス体制もちろん作ってきたいというふうに思っておりますが、まあ、あのう、現状のクオリティを維持しながら新たなサービスを追加するというので、これはまあ、人員のこともございますので十分検討して進めていきたいというふうに思っております。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、まあ、説明が先ほどからありましたように、やはり物がないから修理に時間がかかるとかいうことはあってはならないことだと思いますので、まあ、そのへんは一つよろしくお願ひしたいと思ひます。まあ、併せまして、ええ、新運営体制ですけど、やはりこれだけの設備を導入したわけでございます。ええ、ただインターネットができる、IP電話ができる、テレビが見れる、だけではどうかと思ひますので、これからやはり、ええ、高齢化社会あるいは福祉に役立つような、大いにそういう方面にですね、利用していつていくような方針を出していただければありがたいというふうに思ひます。ああ、このケーブルテレビのですね、やはり魅力あるこういう設備にしていかないとやはり加入が落ちるようなことではいけません。どんどん加入いただいてですね、大いに利用いただくようなこういう施設にこれからしていくのが望ましいことではないかと思ひ

ますので一つよろしく願いいたします。ええ、それでは3番目の質問に入らしていただきます。ええ、小学校、中学校、石見養護学校、矢上高校、それぞれ具体的にはですね、ええ、おおなんドリーム学びのつどい石見中学生が語る15年後のふるさと邑南町の姿、ええ、そして矢上高校から町への提言ということで、まあ、昨年から3会場でそれぞれ子どもさんあるいは生徒からですね、これからの未来に向かって大いに夢を語っていただきました。ええ、そしてまあ、地域に入っても大いに課題を見つけたり、研究されたり、それに基づいてりっぱな発表や提言があったわけですが、まず、これに対して町がですね、どのように応えていくか、まあ、この応えることはですね、子どもの夢を育てるそして子どもの思いがこのように、この町に生かされていくということは、ええ、すなわち未来の邑南町のまちづくりにもつながるではなかろうかと私はまあ、考えております。ええ、先ほど、さきほどじゃあない、先般中央新報にですね、ええ、羽須美小学校の生徒さんが酒粕まんじゅうを製作されました。ええ、まあ、りっぱなことだと思います。ええ、地元の池月さん、観光協会、あるいは菓子職人の皆さん、ほいで関係の皆さん方の協力ですでたと思いますが、ほんとうに小学生の皆さんからりっぱなまあ、そういう発想が生まれたということもすごいことだと思うんですが、それを発表してですね、実際に、ええ、形の、となって現れたということは非常に感激、感動があったんではなかろうかと思います。それがこれからのそれを発表されてそして実現された生徒さんの皆さんはこれから素晴らしいエネルギーにかかわってですね、これからのまた新しい発想の元でいろんな地域や町に対してですね、いろんな提言をまたしてくれるんではなかろうかというふうにまあ、私は期待しとりますし、非常にうれしいできごとでございました。まあ、先ほど申しあげましたが、ええ、この三つの会場にですね、まあ、町長、教育長、そして担当課長も出向いて話を聞かれておると思います。ええ、町長はですね、まあ、矢上高校、町への提言という場でまあ、作野先生あるいはNPOの方とも高校生3人とディスカッションを、パネルディスカッションをされております。まあ、そういうことを含めてですね、全体的にまあ、個々でもいいですし、全体的でもいいですし、まあ、どのように受け止めこれからこの子ども達生徒達の提言をこのまちづくりに生かしていくかということをお聞きしたいと思います。

●能美生涯学習課長(能美恭志) 議長、番外

●議長(山中康樹) 能美生涯学習課長。

●能美生涯学習課長(能美恭志) ええ、議員ご指摘のようにあのう、おおなんドリームそれから中学校の30歳になったとき自分が30歳になったとき、15年後ですね、ということで、ええ、テーマに話し合ったり、検討したことを発表した場が今回ありました。ええ、それを生涯学習課としても非常にあのう、子ども達が立派に発表してくれたということを喜んでおります。ええ、おおなんドリーム学びのつどいにおいてはあのう、そういった子ども達が学びの活動を通して、大人のがんばる姿を実際に見たり、またふるさとの良さを実感したりすることによって、自分たちの将来やそして夢や思いを発表できたということがなによりこれが教育的に意義のあることだというふうに思っております。同時にあのう、この場は大人にとってみますと、子ども達の夢を、思いを受け止めて自分では何ができるか、または地域では何ができるかという、そういう重要な機会になったというふうに捉えております。ええ、提言につきましても、子ども達ができること、または大人ができること、まあ、子どもと大人が協働してできることという、いろいろあると思いますが、先ほどお

っしやったように阿須那のサミットをとおして、ええ、子ども達の夢をかなえてやろうという大人の動きがここに出てきたというふうに思っております。まあ、あのう、さきほど酒粕まんじゅうのこともありました、その他にもイノシシカレーを作ってみようじゃないかというような取り組みもしておりますし、それから、ええ、キャンプ場の復活を目指して署名活動なども実際に行動に移っておるところでございます。ええ、今後はあのう、この阿須那の取り組みのように子ども達と大人が共に学んで活動できる場を学社協働に設定してまいりたいと考えております。

●**原定住促進課長(原修)** 議長、番外。

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** 矢上高校生から町への提言ということに関しましては、ええ、昨年11月1日矢上高校体育館において高校生が語る未来フォーラムの第1部、プレゼンテーションの中で普通科の2年生が五つのグループに別れて課題について解決策を提言していただきました。ええ、その五つ改めて町としての方針も踏まえて改めて申しあげますが、五つの中の一つは矢上高校をもっと魅力的な学校にということで、魅力化とPRで入学希望者を増加させてはどうか。具体的にもっと産業技術科の紹介であるとか、各種大会の結果とかそういったものが見やすいホームページにしてほしいということ。もう1点は小、中、高通じて同じスポーツができる環境づくりをしてはどうかというような提言でございました。ええ、この見やすいホームページにということについては来年度学校案内のDVDを作成するという計画で進んでおります。これはおおなんケーブルとともにとり、録画等取りかかる予定でございます。二つ目に香木の森公園の誘客数を増やすということで、遊具も老朽化しておりますし、アクセスの問題があるということで具体的にはスキー客の優遇や送迎バスを運行してはどうかという提言でございました。三つ目に矢上駅を新しくしたいということで、人が集まる活気あふれる明るい駅にしてはどうかということで、まあ、駅の設備や環境改善をしてはということで、これは議員さんもお存じかと思いますが、あのう、矢上駅の看板に高校の美術部の生徒が毎年描き替えるということで、1年ずつ更新する看板も作成しております。あと、矢上高校のアピール、農産物を販売してはどうかということで、これにつきましては来年度期間限定で、あのう、矢上の交流センターの方で高校生の産業技術科の農産物と移動ショップを開設する予定ということになっております。四つ目、町内の子どもを増やそうという提言で、邑南町の問題を分析し、子どもを増やす方法を考えるということで、具体的には出会いのイベント、恋活ファームというのを年間複数回実施してカップルを増やしてはどうかという提言でございました。これは今年度も実施しておりますが、来年度も、また確かに年間複数回と、複数回同じ人が参加して、こう熟成していったらという提案なのでこれも同じく、あのう、来年度実施する予定であります。五つ目に邑南町を全国にアピールしようということで、興味を持ってもらえるアピール方法を考えるということで、提言ではゆるキャラをつくり、全国にアピールしようと、ええ、メディアに取り上げられることによって知名度がアップし、関連商品を販売してはどうかという提言でございました。まさに同じ時期、邑南町マスコットキャラクターの選定というのを実施しております、今後まあ、投票でまた町民の皆さまにも、あのう、選定に参画していただきたいと思っておりますが、こうして、我々が思っていることと同じことであるとか、気付かなかった具体的な提案いただきまして、まあ、背

中を押して勇気づけられたという点多々ございました。

●石橋町長(石橋良治) はい議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) まあ、あのう、それぞれの立場から答弁をさせましたけども、まあ、少し、こう私の目からもお話をしたいというふうに思います。ええ、まあ、従来のおおなんドリームは比較的あのう、一方通行的なところもあって、少し退屈をしたきらいもあつたんですが、まあ、今回のことに関しては非常に私も参加をしてきごたえ、聞きごたえがあつたということで、逆に私どもも非常に気づきが多かつたということだと思います。ええ、また矢上高校の未来フォーラムについても私もパネラーの一人として自分の私なりの意見を言わさしていただいたり、謙虚に高校生の意見を聞いたりして、非常にまあ、有意義な会ではなかつたかなあとことであります。で、まあ、今回の特に私がよかった点というのはやっぱり地域で頑張っている子ども達が自分たちの地域のことをまず知るといふことで、地域の課題はなんだろうかということから始まって、そして、現場へ出かけて、フィールドワークと言いますか、いろんなことを自分たちで、ええ、知っていくという過程。これはやっぱり問題解決を図る上において、非常に基本的なやり方であつて、それを学べたて言うことは非常に大きなことだといふふうにまあ、思っております。そしてその学んだことを大勢の前で発表する、いかに分かりやすく発表する、いかに自分たちの主張を聞いてもらえるかといふ、いわゆるプレゼンテーション能力と、こういうことを高めることについても非常に役に立つと、今の時代はそういうことも求められるといふふうに、まあ、思います。そしてとにかくここで普通は終わってしまうんです。終わってしまうんだけど、先ほど話しがあつたように、自らがそれを子ども達は実践をしていったということについても非常によかったなあと思います。酒粕の話も出ておりました。先日、実は軍原のキャンプ場の早期再開を求めて著名活動を、町長、やりましたということで、署名簿もつけて阿須那の小学校の5、6年生が私のところへまいりました。ええ、と、同時に酒粕も持って来ていただきました。まずは食べてみて下さいと、まあ、こういうことで酒粕を食べたん、酒粕まんじゅうを食べたんなんですが、実はほんとにお世辞抜きでおいしかったということであります。おそらくこれは特産になるんじゃないかなと思いますし、それからなによりもその署名をしたということ、自分たちがいくら主張しても、じゃあそれをどういふふうにこの思いを遂げていくかということについて、ええ、署名という方法で、ええ、自分たちは学んだということについては非常にまた、これまた大きな勉強になったんじゃないかと思ひます。300名以上を超える署名でありまして、町内は元より町外、広島県の方々からもですね、多くの署名をいただいたようであります。その努力というのは非常に今後の彼らの成長過程に大いに役に立つのではないかなと思ひておりました。ええ、考えることから始まって、実践までいく、ここまでできたといふことは非常によかったと、まあ、いふふうに思ひます。で、逆に私どもがそれを受けて反省する点はまだまだ香木の森公園の話も高校生出てましたけども、いろんないい町の資源があるんだけど、その資源というものをやっぱり上手に子ども達も含めて、ええ、どれだけ活用してるんだろうかといふことが、私は大きな反省の一つとして出て、自分としては出てまいりました。とにかく大人の目線でその町内の資源というものを考えがちですが、子どもも含めて、子どもの教育も含めてですね、町内の資源をフル活用するといふことについて、



非常に今後のあり方については反省をする点でもございますし、ええ、そして、ええ、子ども達のそういった思いを、今課長が言いましたように、100%は実現はできないかも知れませんが、できるだけ実現をするように今努力をしております。そのことで子ども達も我々のそういった姿勢というものを感じとってくれて、よし、また次がんばろうと、まあ、こういう気持ちになるんじゃないかと思っておりますので、非常にあのう、総合的にですね、これはいい内容であったなあというふうに、まあ、思っ、是非これも継続していただきたいなあというふうに思います。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、先程来、話がありますように、まだこの他にもですね、ええ、観光をもっともっと生かしていこうとか、ええ、豊かな山林資源を生かしていこうとかいう課題についても発表がありました。まあ、観光課長、農林課長におかれましても、どういう意見が出てくることをですね、よく確認されまして、これも町政に反映していただきたいた、いっていただきたいたというふうに思います。ええ、やはり、子ども達は私たちにボールを投げてくれました。やはり、そのボールをですね、私たちはしっかりと受け止めてすぐできるもの、2、3年かかるもの、ええ、これはどうしてもできないものというようにですね、子ども達が理解できるようにしっかりと親切にいいボールをまた子ども達の元へ渡すのが私たちの努めではないかというふうに考えております。ええ、終わりますますが、ええ、矢上高校のフォーラムの時に、ええ、実行委員長でもありました北広島、大朝中学校の、名前を言いますが、若林くんという生徒がですね、まあ、生徒会長もやとられますし、また野球部のキャプテンでもある、まあ、りっぱな生徒さんだと思いましたが、ええ、こういうことを最後の挨拶で締めくくりに言ってくれました。まあ、自分は邑南町の出身ではないし、最初はなんで邑南町のことを調べたり、提言したり、意見発表をしたり、課題について提言したり、しなくちゃいけないかなあと、まあ、始めはおもったと。まあ、次第に邑南町のことを調べて知っていくうちに、また提言を準備していくうちに、邑南町のことをまあ、好きになりましたと。そして、邑南町に愛着がわきました、こういうことを言ってくれました。非常にまあ、そのう、ありがたいことだと思います。まあ、この言葉がですね、全てこの三つの会場で、三つのことについて、ああ、三つのテーマについていろいろ発表をなされたわけですが、やはりどの子どもさんもそういう気持ちがわいてきたんではなかろうかというふうに私は思います。中でも意外に多かったのが、邑南町は好きだから邑南町に将来は住んで、邑南町で頑張りたいというふうな生徒さんも多くおられました。非常に素晴らしいことだと思います。やはりそのためにもここに掲げてありますように、ええ、子どもさんの意見や提言については、私どもがしっかりと受け止めて、ええ、答えを返していくそういう姿が一番大切ではなかろうかとそれを町政に反映していくことが大切なことではなかろうかというふうに実感として思いましたので、今日いろいろ質問いたしますか、意見、提起をさしてもらった次第であります。ええ、まあ、いろいろ申しましたが、一つ一つですね、ええ、町政に反映していただきまして、まあ、住みよい、安心安全で住めるようなこういうまちづくりを将来に渡って、つくって、みんなで作っていくといいなあというふうに考えとります。ええ、以上を持ちまして私の質問は終わらしていただきます。ありがとうございました。

●議長(山中康樹) 以上で漆谷議員の一般質問は終了いたしました。本日はこれにて散会といたします。大変ご苦勞様でございました。

—— 午前11時35分 散会 ——